

教員名	坂元 章 (SAKAMOTO Akira)
所 属	文教育学部人間社会科学科心理学講座
学 位	博士 (社会学) (1992 東京大学)
職 名	教授
URL / E-mail	http://www.hss.ocha.ac.jp/psych/socpsy/sakamoto/ / sakamoto.akira@ocha.ac.jp

◆研究キーワード

メディア / 心理学 / テレビ / テレビゲーム / インターネット

◆主要業績

総数 (63) 件

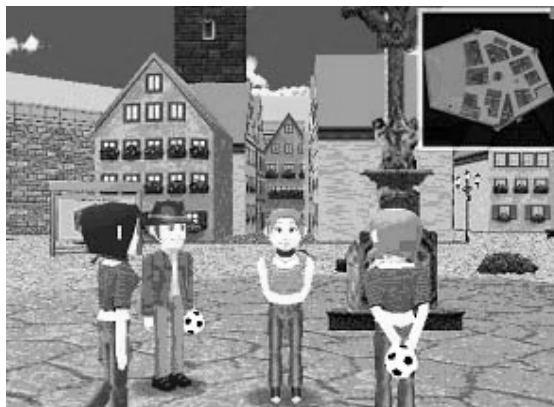
- ・坂元章 (研究代表者) (2007,3) テレビ番組の暴力描写に対する評価システムの構築
—内容分析と縦断的調査に基づいて— 平成 15～18 年度科学研究費補助金 (基盤研究 (A))
研究成果報告書 全 443 ページ
- ・坂元章 (研究代表者) (2007, 3) メディアが青少年に及ぼす影響に関する研究の動向 —文献調査—
平成 18 年度文部科学省委託「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」調査研究事業報告書 全 202 ページ
- ・坂元章 (研究代表者) (2007, 3)
「青少年とメディア」の問題に対するスウェーデンとフィンランドの取り組みに関する調査
平成 18 年度文部科学省委託「青少年を取り巻く有害環境対策の推進」調査研究事業報告書 全 86 ページ
- ・坂元章 (監修) フォーランナー (制作) (2006, 4)
[スライド、冊子] ケータイ安全教室 ートラブルに会わないために いま、しなければならないこと—
NTTドコモ・サービス
- ・Rei OMI, Akira SAKAMOTO et al. (2006, 10) Causal relationships between the Internet use and information literacy: A three-wave panel study of junior high school students. Educational Technology Research, 29 (1-2), 25-36.

◆研究内容

従来、「メディアと人との関わり」を研究課題としているが、2006 年度もそうした研究を進めるとともに、その成果を、論文、報告書、学会発表などによって報告した。2006 年度における重要な仕事としては、日本学術振興会科学研究費補助金 (基盤研究A) の助成による「テレビの暴力シーンと向社会的行為シーンの内容分析研究」プロジェクトがある。これは、4 年間にわたるものであるが、2006 年度は最終年度であり、大部の報告書をまとめた。また、文部科学省からの委託によって、「メディアが青少年に及ぼす影響に関する文献研究」「スウェーデンとフィンランドにおけるメディア問題の取り組みに関する調査」の 2 つのプロジェクトを研究代表者として実施し、それぞれ報告書をまとめた。この他にも、情報リテラシーやメディア・リテラシー教育の教材の開発に協力するなどの仕事を行った。

◆教育内容

従来、学部および大学院において、社会心理学に関する授業を担当しており、その領域の研究、理論、方法などの指導を行っている。卒業論文、修士論文、博士論文の研究においては、メディアに関するテーマを持つ学生が多く、その分野の指導を行っている。例えば、2006 年度の卒業論文のテーマを挙げると、「食料品のテレビCMに関する内容分析」「携帯電話の利用と選択的友人関係」「子どもに人気のある番組の内容分析 —職業の描写—」であった。また、2006 年度においては、ハワイ大学教授で消費者心理学を専攻するニコラオス・シノディオス先生を招聘し、大学院と学部で授業を担当していただいたが、その手配を行った。さらに、博士前期課程における新しい副専攻的プログラムである「社会コミュニケーション・プログラム」の設置と運営に尽力した。



◆Research Pursuits

My research interests are in relationships between media and people, and in the fiscal year of 2006, I have still conducted some studies on this issue and presented articles and books where their findings are reported with my coresearchers. The project of “Content analysis on the portrayals of violence and prosocial behavior in television” was my important work of fiscal year of 2006. The research fund of this project was JSPS Grants-in-Aid for Scientific Research (Category A), and we have conducted it for four years. Since the fiscal year of 2006 was the last project year, we made a large report book of this project. We also conducted two other projects, that is, “Research on the previous findings of impacts of media on children and adolescents,” and “Research on the current situations of media problems in Sweden and Finland”, trust by MEXT, and made their report books. I was the leader of research team. In addition, I contributed to the development of some teaching materials of information literacy and media literacy.

◆共同研究例

テレビが子どもの発達に及ぼす影響 (NHK放送文化研究所)
ICTの教育利用の効果 (日本IBM、NTTコミュニケーションズ)
パーソナル・ロボットのイメージ評価 (日本電気)

◆共同研究可能テーマ

- ・テレビゲームと教育に関する研究
- ・メディアと脳に関する研究
- ・メディア・コンテンツ制作者に関する研究

◆将来の研究計画・研究の展望

現在、メディアの心理学的研究について、いくつかのテーマに関する研究を進めているが、今後は、それぞれの研究を充実させるとともに、この分野の研究の活性化や、その「メディア心理学」という一つの研究領域としての確立に尽力したい。

◆受験生等へのメッセージ

「メディアと人間の関わり」について知りたい方は、「メディアと人間の発達」(学文社、坂元 章編、2003年)をご参照ください。とくにテレビゲームについては、「テレビゲームと子どもの心」(メタモル出版、坂元 章、2004年)をご覧ください

◆Educational Pursuits

I have some classes on the field of social psychology for graduate and undergraduate school students, and I have been teaching them its research, theories, methods, etc. In addition, most students belonging to my laboratory study issues on media to make their bachelor's, master's, and doctoral theses, and therefore I have been engaging in the guidance of the field. For example, as to the fiscal year of 2006, the titles of bachelor's thesis were “Contents analysis on television commercials of food,” “The use of mobile phones and selective friendships,” and “Content analysis on television programs popular to children.” In the fiscal year, Professor Nicholas Synodinos, who taught consumer psychology at University of Hawaii, was invited to Ochanomizu University to have the courses of undergraduate and graduate students. I managed this project. In addition, I also contributed to the establishment and management of “Social communication program”, which is a new submajor program of master's course.

